

ひらく、知る、つながる

愛知県 精神医療センター ニュース

[愛知県精神医療センター広報誌]

vol.15
2023.01



安心安全な治療環境を目指して
～CVPPPってなに？～

認定看護師 + CERTIFIED NURSE

生きづらさという
苦痛・苦悩の緩和に努める看護

INFORMATION

アルコール依存症
家族相談開始のお知らせ

認定看護師 +
CERTIFIED NURSE

生きづらさという
苦痛・苦悩の緩和に努める看護

精神科認定看護師

島田美子



2016年に当院に転勤し、早いもので6年目となり、この4月からは精神科認定看護師として活動を始める事ができるようになりました。これまで大切なことを沢山教えてくださった皆様の存在が、認定看護師になる後押しの力になって下さいましたこと、この場をかりて感謝申し上げます。

私は看護師人生のかなりの時間を、がん看護と緩和ケアの実践・研究に費やしていました。発端は、看護学生の頃のがん患者さんとご家族との出会い、自身の家族の病気と別れの経験にも強く影響されています。希望なくして人は生きられない、という場面に何度も何度も出会い、こころのケアの重要性を感じてきました。そして、こころが病気・障害に与える影響、反対に、病気・障害がこころに与える影響、その双方向でとらえていく必要性を感じる様になりました。どこの病院でもどの科でも、看護ケアの本質はこころのケアにあるのだと思います。

日本精神科看護協会のホームページでは、精神科看護師の役割について「病気や障害によってつらい思いをしている人や、さまざまな理由で生きづらさを抱えている人のために。」と、表現しています。つらい思い、生きづらさという苦痛・苦悩を完全に取り除く魔法はないとしても、

「緩和」する方法はぜひ紹介されるようになります。認定看護師として、果たせる役割には、真摯に向き合っていきたいと考えております。

今回は、いますぐできる「こころのお手入れ」セルフケア7か条の紹介をさせていただきます。

- ① 規則正しく食事する
- ② 夜更かしせず朝起きて日光を浴びる
- ③ 適度に体を動かす
- ④ 安心できる人に素直な気持ちを話してみる
- ⑤ 気持ちを自由に書き出してみる
- ⑥ ちいさな「ご褒美タイム」をつくる
- ⑦ ストレスはためこまづこまめに発散する

毎日の暮らしの中で、こころの健康に役立つことが出来ればと思います。効果を感じることが出来ない場合は、お気軽に当院にご相談ください。

Information

アルコール依存症 家族相談開始のお知らせ

当院では、家族のアルコール問題でお悩みの方の「家族相談」を始めました。

ご本人が医療機関につながっておらず、医療や生活面、経済面での不安や負担感をお持ちの「ご家族」が対象となります。心身ともにご負担のあるご家族は是非ご相談ください。

詳しくは、当院のホームページをご覧ください。

まずは、その「疲労感の回復」から始めましょう。

▼ 詳しくはコチラ！



認定看護師 + CERTIFIED NURSE

生きづらさという
苦痛・苦悩の緩和に努める看護

INFORMATION

アルコール依存症
家族相談開始のお知らせ



愛知県精神医療センター
Aichi Psychiatric Medical Center

〒464-0031 名古屋市千種区徳川山町 4-1-7
TEL 052-763-1511
<https://apmc.pref.aichi.jp/>



イラスト：桜田

職員が経験を振り返り、また意見交換することことで学びを深めます。

以前 CVPPP の視点で患者さんに対応した時、しばらくしてからあの時はありがとうございました。

危機的な状況こそ人権が配慮されること、安心感を持ってもらえることが重要ですね。

患者さんは不安だと思うので私たちは助けに来た味方と安心して欲しいですね。

なんであの患者さんは暴力を振るうのかモヤモヤしてたのが研修を受けて前向きに考えることができそうです。

落ちつかない患者さんの対応には不安がありますが研修を受けて少し自信がつきました。

私もそう思います。

※研修振り返り風景

精神科において、症状や治療上、必要なケアや行動制限が原因で、時に暴力という誰も望まない行動が出現することがあります。それらが患者理解の障壁となっている現状がありました。当院で暴力に関する研修が始まり20年が経ちます。当初は、患者さん、職員双方の安全を守る対応に不慣れさがありましたが、研修を通して暴力を振るわざるを得ない患者さんへの理解、患者さんが置かれている危機的状況を知り、効果的な言語介入、身体介入のテクニックの習得、また、行動の評価と必要時の対処も蓄積し、自信を持つて対応ができるようになりました。その風土が根付き、暴力を振るう患者さんの理解が広がることで安心安全な治療環境の提供ができる環境に近づいています。

安心安全のための 20年のあゆみ



看護師
西谷 剛志

CVPPPってなに？

CVPPPは患者さんと医療者が暴力およびその不利益から守られるとともに、一人一人が尊重されるために活用されるプログラムになっています。患者さんの怒りが和らぎ穏やかな状態に戻るような交渉技術、暴力後に患者さんと医療者が一緒に同じことが起こらないように振り返る技術、医療者が行う個人またチームでの身体介入技術などがプログラムに含まれます。表紙の写真は、患者さんと会話をしながらチームで暴力が起こらないような対応をしているイメージです。このように常に患者さんと笑顔で対話ができる目標としています。



看護師
渡邊 正樹

安心安全な治療環境を目指して 愛知県精神医療センターの試み

こころの病を患う患者さんは、時に症状からくる不安や恐怖に苦しまれています。当院では、患者さんが抱える不安や恐怖に寄り添い、安心して医療を受けることができるよう、約20年前から院内教育の一環として「包括的暴力防止プログラム Comprehensive Violence Prevention and Protection Program」(以下、CVPPP)を研修に取り入れています。

CVPPPの理念は患者さんと職員一人一人が尊重され守られることを目的としています。



当院の研修実績と 目指す先

CVPPPトレーナーの資格を持ち、研修を行っています。



安心安全な治療環境を目指して当院では、CVPPP研修を実施しています。年間8回の看護部院内研修、医局及び多職種、各病棟での学習会を実施し、日々プラッシュアップしています。CVPPP研修は、外部での講習を修了したCVPPPトレーナー（当院には約30名在籍）と呼ばれるスタッフが院内に限り講師を務め、看護部を中心に研修を行っています。暴力などの危機的状況での言語介入、身体介入を学ぶ事だけでなく、CVPPPの理論、理念を通して、暴力を未然に防ぐ関係づくりや患者さんに寄り添う視点であったり、その人しさについて考える学びを深める場として、講師と研修者が意見を交換することを大切にしています。

安心安全な治療環境

を実施し、日々プラッシュアップしています。

CVPPP研修は、外

部院内研修、医局及び

多職種、各病棟での学習

会を実施し、日々プラッ

ッシュアップしています。